

新型コロナウイルス罹患後症状に見られる肥満と副腎皮質・甲状腺機能との関連性

大村 大輔 (おおむら だいすけ)、副島 佳晃、大塚 勇輝、
高瀬 了輔、松田 祐依、櫻田 泰江、長谷川 徹、
中野 靖浩、本多 寛之、徳増 一樹、大塚 文男

岡山大学病院 総合内科・総合診療科

【背景・目的】岡山大学病院は国内に先駆けて2021年2月にコロナ・アフターケア (CAC) 外来を開設し、Long COVID (LC) 専門外来として1000例超を診療してきた。既報では高BMIや併存症がLC発症・遷延のリスク因子とされ、他疾患で説明されないことが診断上重要である。LCは様々な機序が複合的に関わっていると考察されており、その中で副腎・甲状腺の関与も示唆されるが、肥満度および性差を踏まえた実臨床データは限られる。今回の検討では、オミクロン株流行期のLCにおいて、BMIと性差・LC症状に着目して、副腎皮質機能・甲状腺機能との関連性を検討した。【方法】2022/10-2025/3の受診者733例を後方視的に解析した。やせ ($BMI \leq 18.5$) と肥満 ($BMI \geq 25$) を定義し、内分泌データ (Cortisol [Cor]、ACTH、FT4、TSHおよびCortisol/ACTH、FT4/TSHなど) を性別層別のMann-Whitney U検定で比較、主訴別の解析を行った。【結果】女性例では基礎Cor値が肥満例で低値 (9.10 vs 6.75、 $p < 0.001$) であり、Cor/ACTHは男女とも肥満で低値 (男性0.312 vs 0.248、 $p < 0.01$; 女性0.475 vs 0.400、 $p < 0.01$) を呈していた。また、男性例ではFT4が肥満で低値 (中央値1.51 vs 1.27、 $p < 0.001$) で、主訴別でも倦怠感・ブレインフォグでFT4低値であった。【結論】LC外来では肥満が男性の甲状腺ホルモン低下、女性のCor低下と関連した。肥満は糖代謝異常や睡眠時無呼吸など交絡を伴いやすく、内分泌所見を手掛かりに併存症・鑑別疾患を含めた病態層別化に資する可能性がある。一般集団では肥満と血中Corの関連は一様でないが、LCでは副腎皮質機能低下を示す報告があり、ストレス反応性の鈍化や副腎感受性低下などの関与が示唆される。